

## 肝胆

肝胆では足の厥陰肝経と、足の少陽胆経に対し施術を行います。

### 望診

爪の状態が痛んでいる、爪の色が悪い、皮膚の色や顔色、舌が青っぽい、顔色がくすむ、カサカサで艶がないなどです。

### 聞診

口調が強い、イライラせっかち、ため息が多い、怒鳴るような強い声質、多弁で話が止まらない、あぶらくさいなどです。

### 問診

眼精疲労、ドライアイ、涙がでる、目がごろごろする、ストレス、筋のひきつれ、筋のこわばり、口の中が苦いなどです。季節や気候による不調では春に増悪、風に当たると増悪など。肝の病証では腰痛で身体を倒したり反らすことができない。胆の病証では、目尻・側頭部・顎～下肢外側の痛み、痛みで寝返りができない、第4趾の麻痺などです。

### 切診

脈診では弦脈(弦をはじくような脈)、肝虚脈<sup>かんきよみやく</sup>。腹診では胸脇苦満<sup>きょうきょうくまん</sup>が特徴として挙げられます。

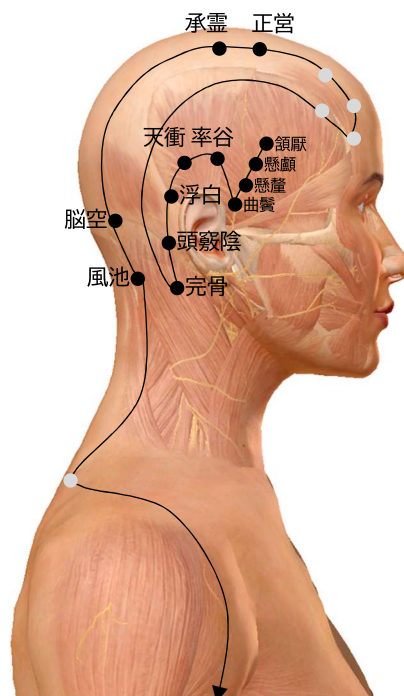
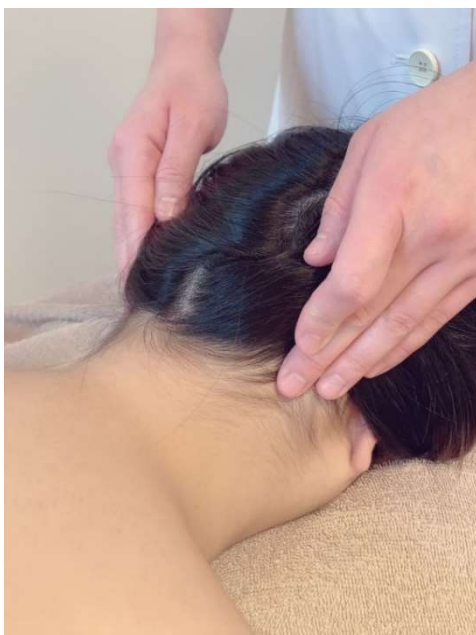
## 1. 頭部/四指揉捏＜少陽胆経＞

両手の示指、中指、薬指、小指の四指を用い、クライアントの側頭筋で少陽胆経の流中に対し、小さな円を描くよう時計回り、反時計回りに揉捏を行います。その後少しずつ位置をずらし側頭部を念入りに揉捏します。



## 2. 頭部/三指揉捏点穴＜少陽胆経＞

両手の示指、中指、薬指の指腹を用い少陽胆経の走行に沿って揉捏し、<sup>がんえん</sup> 額厭、<sup>けんろ</sup> 懸顱、<sup>けんり</sup> 懸釐、<sup>きょくびん</sup> 曲鬢、<sup>そつこく</sup> 率谷、<sup>てんしやう</sup> 天衝、<sup>ふはく</sup> 浮白、<sup>あたまきやういん</sup> 頭竅陰、<sup>かんこつ</sup> 完骨、<sup>しょうらい</sup> 正営、<sup>しょうれい</sup> 承霊、<sup>のうくう</sup> 脳空、<sup>ふうち</sup> 風池の反応をみて必要に応じ点穴します。



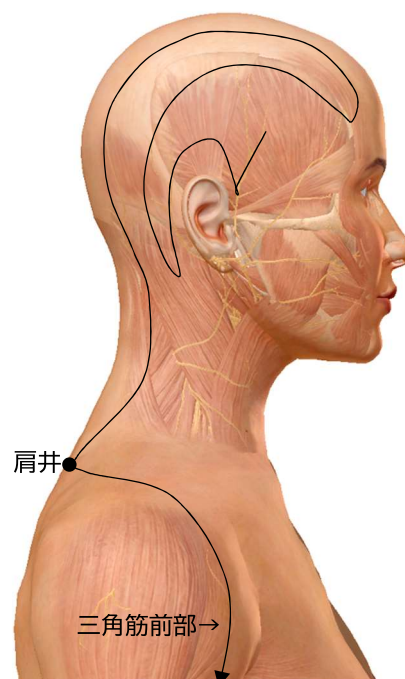
### 3.後頸部/三指揉捏＜少陽胆経＞

両手の示指、中指、薬指の指腹を用い、少陽胆経の走行に沿って風池から肩井まで揉捏を行います。



### 4.肩部/母指揉捏点穴＜少陽胆経＞

両手の母指の指腹を用い、少陽胆経の肩井に揉捏点穴をおこないます。肩井から三角筋前部にむかい、少陽胆経の走行に沿って揉捏を行います。三角筋前部は少陽胆経が栄養する筋でもあるため念入りに施術します。※肩井から三角筋前部までの走行中、鎖骨を避けます。また肩井は子宮収縮作用があるため、妊娠の可能性のある場合は施術を避けます。



## 5. 背部/手掌軽擦・示指強擦＜少陽胆経＞

両手の手掌にオイルを塗布し、背部全体にオイリングを行います。

- ① 督脈の走行に沿って仙骨から大椎まで手掌軽擦します。
- ② 大椎から肩峰まで、示指の指腹を用い強擦し肩峰手前で圧を抜きます。
- ③ 肩峰から三角筋前部を包み込み居髎、環跳を通り戻ります。

